



From China

海外レポート

大連市のコンビニエンスストア事情

1 はじめに

日本における「コンビニエンスストア（以下、「コンビニ）」は、限られたスペースに効率良く商品が並べられ、夜間でも店内が明るく、しかも24時間いつでも買い物が出る等、現在の生活に無くてはならない存在となっています。しかし、ここ大連でのコンビニは、店内が狭く、品揃えにバラツキがある等々、日本で抱くコンビニのイメージとは大きくかけ離れています。その為、日本流のコンビニに慣れている大連在住の日本人にとっては、大連のコンビニに対して少なからず違和感を覚えることがあったのではないのでしょうか。

そんな大連在住の日本人にとって、待望となる日系のコンビニ「大連羅森便利店有限公司（大連ローソン）」の第1号店が、昨年11月にオープンしました。

今回は、日系コンビニの大連新規出店を踏まえ、最近の大連市におけるコンビニ事情についてご報告します。

2 大連市内のコンビニ

大連市内中心部に昨年11月、第1号店がオープンした大連ローソンは、日系コンビニチェーンとして初めて中国東北地方への出店を果たしました。

中国東北地方の主要都市の一つである大連市では、約370店舗のコンビニが営業しており、上海の企業や地元大連の企業が経営する、所謂中国系コンビニが中心となっています。これらの中国系コンビニは、ほぼ全ての店舗でフランチャイズ制が採用されており、日本同様、元々個人経営だった商店がフランチャイズ契約に基づき、各ブランドの看板を掲げて営業を行っています。

但し、同じブランドでありながら、店舗毎に取扱商品が大きく異なっているケースも多々見られる等、内外装のデザインだけでなく取扱商品でも統一感がある日本のコンビニのイメージとは大きく異なっています。



中国系コンビニの店内風景

中国語では、コンビニを「便利店」と表示しますが、私自身の率直な感想としては、日本流のコンビニを実現する為には、まだまだ多くの改善点が必要だと感じています。

その理由は、まず、店舗に入って感じる圧迫感です。店舗面積は一般的な日本のコンビニと比べて狭く、更にその限られたスペースに山積みの商品が並べられている為、通路も狭く客同士が行き交うことが困難になる程、圧迫感がある店舗も見受けられます。

また、店員のサービスも日本とは大きく異なります。一般的に、店員からお客様に対して「いらっしゃいませ」や「ありがとうございます」等の挨拶が行われることは少ないと感じています。また、営業時間内に開店していない店舗もありますし、反対にシャッターは開いてはいるものの、店員が不在である為買い物が出来ない等、日本では余り見かけない光景を時折見かけることもあります。日本流のサービスを基準に考えると、サービス文化の違いに戸惑うことも多くありました。

こうした大連での体験から、日系のコンビニ進出への期待を膨らませていくことになったのです。

3 日系コンビニの進出状況

大連でローソンを運営する大連羅森便利店有限公司は、株式会社ローソン（日本）と地元ファーストフード企業との合弁会社として設立されました（出資比率は株式会社ローソンが95%、地元ファーストフード企業が5%）。

2012年3月末現在、大連市内に3店舗のローソンがオープンしており、今後は、年内に30店舗、5年間で150〜200店舗をオープンさせる予定です。

中国全土における日系コンビニの進出状況をみると、ローソン以外にも、セブンイレブンやファミリーマート、ミニストップ等が進出しています。しかしながら、これらの日系コンビニの進出先は、北京や上海、広州が中心となっています（まだ大連への進出は果たしていません）。

大連在住の日本人として、他の日系コンビニの進出による店舗ブランドの充実にも期待しています。

現在オープンしている3店舗については、外観・内装ともに日本とほぼ同様の造りを採用しており、店内も明るく、広い通路で商品も見やすい等、先述した中国系コンビニで感じるような圧迫感はありません。

また、商品の品揃えについても、中国製品を中心に共通の商品を取り扱っていることから、どの店舗でも同じ商品を手にすることが出来ます。中には、（余りの人気の高さによるものなのか）若干の欠品が見られることもある様ですが、店舗数の増加とともに物流システムの改善・増強も期待されることから、今後はこれら商品の欠品についても改善していくものと思われれます。



大連ローソンの外観



日本と変わらない雰囲気の大連ローソンの店内風景

気になる店員のサービスについても、入店時には「いらっしやいませ」、退店時には「ありがとうございます」と中国語での挨拶が行われています。日本ではごく当たり前のサービスですが、先述したように大連のコンビニでは今まで余り見かけられなかった光景であり、かなり新鮮な感じがあります。

このように日本国内と殆ど変わらないサービスを提供している大連の日系コンビニですが、違いもあります。それは、大連の日系コンビニには全て惣菜の量り売りコーナーと飲食スペースが店内に設置されていることです。その為、昼食時間になると店内で惣菜を買って、そのまま飲食スペースで食事をしている光景も目に出ることが出来ます。

日本流のサービスを提供するコンビニは、現地でも好意的に受け入れられている様です。

4 終わりに

中国で日用品を購入するには、一般層は露店を中心とする自由市場、富裕層は大型スーパーや百貨店を利用するのが主流である為、日本の様にちよつとした買い物をコンビニで済ませるといふ習慣は根付いていない様です。先程も説明したとおり、大連の中国系コンビニは、商品数が大型スーパー等に比べるとまだ限られており、目的の物を全部買い揃えにくいことや、定価販売であり値切り交渉が出来ない、「値段が高い」というイメージが強いこと等が考えられます。こうしたことから、既存の中国系コンビニが名実ともに「便利店」となる為には、店

舗の内外装や品揃え、接遇サービス等のハード、ソフトの両面において「便利さ」を実感することが出来るように改善を図っていくことが必要であると言えます。

中国では、近年の経済発展に伴い、国民の生活レベルも向上してきています。また、核家族化や単身世帯の増加等といった都市化の進展により、所謂「個食化」や様々な商品の小分けニーズの高まり等、消費者の趣向も多様化しています。日本がかつてそうだったように、生活レベルの向上や人々の生活スタイルの変化に伴い、中国でもサービス業に求められるレベルは、今後ますます高くなってくるものと思われます。

そのような中、日本流のサービスを提供するコンビニが登場したことは、大連の既存のコンビニをはじめ、サービス業の接遇や、提供する商品のレベルを進化させていく上でも、大きな影響を与えるのではないかと考えられます。

また、日本流のサービスを提供する企業側にとっても、日本国内で鍛えられたサービスを、現地の状況に合わせてカスタマイズしながら提供することによって、新たな市場の開拓へと繋がるチャンスが存在しているとも言えるのではないのでしょうか。

(大連駐在員事務所 宮城 正志)

海外進出最前線

海外進出されている福岡銀行名古屋支店のお取引先企業グループのご紹介

香港編

株式会社 榎屋

榎屋有限公司(香港)



榎屋有限公司(香港)の皆様

榎屋グループは、名古屋に本拠地を置く株式会社榎屋を中核とした企業グループで、自動車、OA機器、電気・電子機器、航空機産業等に必要不可欠な製品や部品・原材料の製造販売を行っておられます。その特徴としては、輸送機器用精密印刷製品、ロールブラシ等産業用織物製品、成形・押出製品等の自社製品だけでなく、合成樹脂材料、工業用テープ、塗料等の他社製品も取り扱う等、広範な産業分野に多種多様な製品を販売されていることがあげられます。また、海外拠点のネットワークについても、販売先のグローバル化に対応し、東南アジア、中国、米国、欧州等8つの国と地域に及んでいます。

香港での事業展開は1996年、100%子会社である榎屋有限公司(香港)の設立に始まります。今日に至るまで、ゼロ関税である香港のメリットを活用した現地日系企業への販売に注力してこられました。特に2007年頃からは、複合機・プリンター等OA機器に関連する製品を中心に自社工場製品の販売活動も強化されてきましたが、最近では商品企画・開発機能を有する日本のR&Dセンターや、ベトナムや広州の製造拠点とも連携をとりながら、OA機器関連製品以外に、電気・電子機器や輸送機

器関連製品の販売拡大にも取り組んでおられます。また、同グループのネットワークだけでなく、販売先のニーズに対応しながら営業活動を展開する過程で現地部品製造会社等とのネットワークも拡大していき、これらを最大限に活用した幅広い商品群をお取り扱いしております。

今後は、グループ内における香港・中国における販売拠点としての役割を担いながら、これまで培った現地協力工場等の購買ネットワークを活用した調達機能を強化し、日本などへの輸出拠点となることを目指す等、より一層の商社機能の発揮に注力される予定です。このような機能の拡充は、同グループがこれまで取り扱っていなかった分野においても新たなビジネスチャンスをもたらす可能性があり、日系企業のみでなく、非日系企業への販売等、一段のビジネスの広がり

に繋がる可能性を感じるこ
とが出来ました。
(香港駐在員事務所 菅大輔)

PROFILE

現地法人名： 榎屋有限公司(香港)
住 所： Rm. 807A, 8/F., The Harbourfront Tower2,
No.18-22 Tak Fung Street, Hungghom,
Kowloon, Hong Kong
T E L : +852-2621-3220
F A X : +852-2621-3918
親会社名： 株式会社榎屋
住 所： 名古屋市中央区上津二丁目9番29号
T E L : 052-331-5451